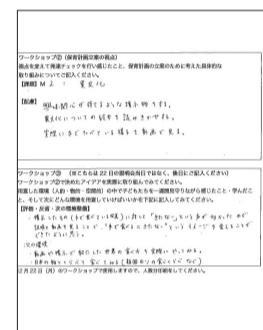


先日、ある園児管理システムを使っていた園の先生方からお話を聞く機会がありました。数年間使ってみて困っていること。それは「一人ひとりの発達に寄り添つていきたけれど、毎年4月になるとクラスの年齢の項目（5歳児クラスは5歳の項目）が表示されるので、早生まれの子達には難しすぎるし、一部の子にしか合わないし、何よりも『年齢で定められた保育をろしていく』流れがうちの保育には合わないと感じる」といったことでした。

ICT化を推進する国のお陰で、園児管理システム

時代の流れですが、改めてここで考えなければならないことに気づきます。それは「園が目指す保育に合ったシステムを導入すること」です。子どもたち一人ひとりが自ら主体的に活動を選択していけるような保育や、発達過程や発達課題に寄り添つて保育をしていきたい場合、「管理」を前提とした「一斉画一型・年齢別」「先生主導」の保育に合わせたシステムは合いません。

「ミマモリングソフト」の環境（異文化）の項目について、子どもたちが異文化に触れられるように、世界の人達はどうのように食べ物を食べているかや、日本と韓国の海苔の味比べなどについての環境設定を発表して頂く予定です。



シートの内容について発表して頂きます。

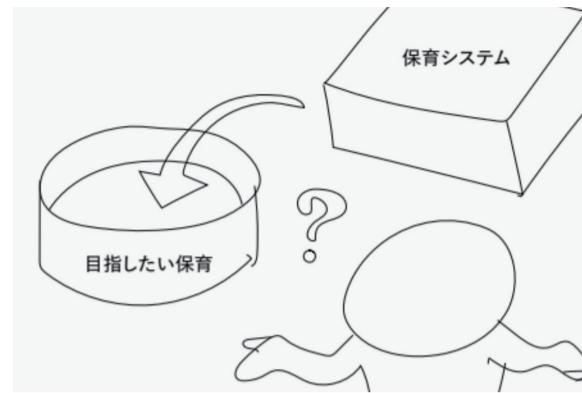
2月に開催しました、「ミマモリングソフト」ズーム説明会にご参加頂いた園の皆様から、後編の勉強会として、島根県のあさりこども園様、香川県の観音寺中部こども園様に実践発表をして頂きました。2園の先生方には、ワークショップで取り組んだ内容について写真等を交えて、実践発表をして頂く予定です。



東京組は集合し、他の仲間は遠隔からお祝いを。



お祝い尽くしでケーキのプレートも2枚使いに！



自園にあったシステムにお悩みの際はご相談ください。

## 目指す保育とのマッチング

# 竹取新聞

発行所  
株式会社カグヤ



第141版

理念と実践で  
絆を結びます

## ズーム実践発表会



ソフトの新しい活用方法を模索しています。

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てばと始めました。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

## 節目を味わう

新年度が始まりましたが、この年度がわりは私たちにも数々の節目が訪れました。まずは10年一緒に働いてきた仲間が退職することとなり、最終日に卒業式を。また3月に誕生日を迎えたクルーのお祝いや、勤続10周年を迎えた仲間のお祝い、更にはおかげさまでカグヤも設立19周年となりましたのでそちらのお祝いも一緒に行いました。

節目の語源は「竹の節」とされ、竹は節があるからこそ大きく成長でき、節があればあるほど強くしなやかになるとも言われています。物事の区切りとなる大事な節目も忙しさに追われていると忘れたり流してしまったりすることもありますが、その日は一度と訪れませんし、その時にしか感じられないものがありますので、私たちは忙しくてもしっかりと振り返り味わえるお祝いの場を大切にしています。

ついで発表をして頂きます。今回の実践発表会は、2月に実施した説明会の続きの勉強会となります。「ミマモリングソフト」を活用している園を参加対象としています

が、実践発表後には、こちらの竹取新聞でも内容をご報告する予定です。

■今後の「ミマモリングソフト」ズーム説明会の予定（参考）  
第2回勉強会・前編 5月25日  
日・後編 7月27日  
第3回勉強会・前編 8月31日  
日・後編 10月29日  
受付開始については、改めてご案内いたします。

カグヤクループログも毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



[www.caguya.co.jp](http://www.caguya.co.jp)

「聴福庵」の情報はFacebookで

f 神家総本家 聽福庵



CAGUYA COMPANY NEWS

カグヤニュース

「間違つていい？」  
その間の取り方に違和感があると  
「間が悪い」「間に合わない」「間抜け」  
「間違い」などといって、その「ズレ」  
の修正に努めてきたのです。この  
日本独特的「間の文化」の背景には  
「あらゆるものが共存するための智



くついつたり離れたり、その時どきの心境で距離感（間）は変わりますね！  
さて、今日はどうかな？

「間違い」という言葉の本来の意味  
は「間の違い」です。日本人は襖や  
障子、あるいは衝立などで部屋を自  
由に仕切ったり、「余白」を芸術とし  
て生かした「空間的な間」や、話の  
呼吸や様々なタイミングをはかる「時  
間的な間」、そしてお互いの心の距離  
をはかる「心理的な間」を大切にし  
てきました。

## 「間」違つていい？!

慧すなわち、その都度「間を整える」  
ことで「対立」を避け、異質なもの  
同士を「調和」させて「和」を実現  
させると、という思いやりの心が働いて  
います。

コロナ禍で「ソーシャルディスタンス」と言われ、物理的な距離を求  
められていますが、見守る距離感や  
お互いの大切な心の距離感を「間違  
わない」ようにしたいものです。

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクル一  
同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信  
しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

## 行動指針の刷新

### ◆カグヤ行動指針◆

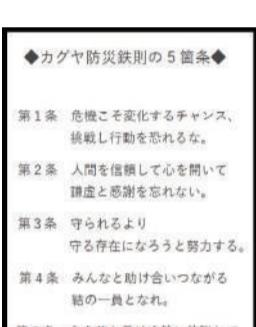
- ・実践！日本の未来のためにひたすら信じてやろう。
- ・できない言い訳をせず、どうやってやるかを考えすぐにやろう。
- ・不安は悪くない。不安も受容し、禍福一円。
- ・一音から選択制の見守る働き方へ。それとの持ち味を大切に。
- ・守ってもらうから守へ。会社だけでなく國も守る意識から。
- ・命も時間も有限だからこそ、一日一日を大事に。
- ・稼ぐことはお役に立つこと。周りに喜んでもらえる働きを。

自らを振り返り、指針を打ち出すのは初の試みです。

弊社では、東日本大震災の起きた  
3月11日を毎年「大切なことを忘れ  
ないDAY」として、起きたことを  
決して無駄にしないためにも、自分  
たちが次世代の子どもたちのために  
どう行動すべきかを確認し合う場を  
設けています。

この一年はコロナウイルスという、  
ある意味未曾有の危機と直面しまし  
た。そこで今回は、コロナ前とは自

からこそ、自分が体験したこと  
からその時その時に合わせた指針に  
刷新し、積み重ねていく姿を遺して  
いきたいと思います。



「カグヤ防災鉄則の5箇条」も、  
今が有事だと意識した内容に  
見直しをしました。

分たちの生き方や働き方がどう変わ  
り、どんなことを大事にしてきたか  
を振り返り、それを新しいカグヤ行  
動指針とするために確認し合いまし  
た。

「指針」とは「物事を進めるうえで  
頼りになること」ですが、震災やコ  
ロナウイルスなど人生が変わるよう  
な体験をするたびに、生き方も働き  
方も変わっていきます。私たちの全  
ての仕事の先には子どもたちがいる

## 健康第一

### 一期一会庵

コロナウイルス禍において、いつ  
も以上に免疫を下げないことや健

康を維持することを気をつけるよう  
になりました。人は平素が健康でなけ  
れば、何をやっても楽しくはありません。

健康とは、身体だけに限らず、心  
や精神の健康もあります。つまり健

康とは全体調和してバランスが取れ  
ている状態であり、すべてがととの  
い落ち着いて和合している状態のこ  
とをいうように思います。そのため  
に日頃から暮らしをととのえていく  
しかありません。では日本の先人た  
ちはどのように暮らしをととのえてい  
ましたのか、少し調べてみると「健康  
十訓」というものに出会いました。  
これは江戸時代の俳人、国学者でも  
あり武士でもあった「横井也有(よ  
こいやゆう)」という人物が記した言  
葉です。

3月は社内でのお祝い事が重な  
りました。物理的な距離は離れて  
いても、お祝いの時にはお互いを  
想い、心の距離が自然と近づきま  
す。コロナ禍により、尚更大切な  
機会であると実感しました。

カグヤは新たな挑戦を続けてい  
ます。

(奥山卓矢)

五. 少衣多浴（厚着を控えて日光浴  
し風呂に入りましょう。）  
六. 少車多走（車ばかり乗らず自分  
の脚で歩きましょう。）  
七. 少憂多眠（くよくよせずたくさ  
ん眠りましょう。）  
八. 少慎多笑（いらいら怒らず朗ら  
かに笑いましょう。）  
九. 少言多行（文句ばかり言わずに  
まずは実行しましょう。）  
十. 少欲多施（自身の欲望を控え周  
りの人々に尽くしましょう。）

まさに、日々の暮らしをととのえ  
るために何を気を付けて実践してい  
けばいいのかが記されています。  
きっと江戸時代の人も、わかつては  
いるけれどつい欲に任せて生活する  
ことで病気になり不健康になつたの  
でしょう。人間はつい調子にのつて  
しまいますから、若い時はできても  
歳をとるとそれはいかなくなるもの  
です。

老いと向き合うことが増えると、  
当たり前ではなかつた健康と向き合  
い、そこに感謝することが増えます  
から歳をとることもまた素晴らしい  
ことなのかもしれません。  
最後に、この横井也有のこの言葉で  
締めくくります。「老は忘るべし。又  
老は忘るべからず。」  
子どもたちのお手本になるような  
大人の生き方を通して、日本の保育  
の環境を磨いていきたいと思います。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

ライトハウス(灯台)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-882  
fax.03-6733-7722

カグヤウェブセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

